

米づくりに、 感動の フィナーレを!

**ヨーバル®
プライム EV
箱粒剤**

キレイなお米のヒケツは、
「紋枯病」の防除にありました。

- 紋枯病に有効なエバーゴル®(ペンフルフェン)
- いもち病に有効なルーチン®(イソチアニル)
- 初期害虫・チョウ目害虫に有効な
ヨーバル®(テトラニリプロール)

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

慣行播種
箱当り
50g

高密度播種
箱当り: 50~100g
(1kg / 10aまで)

◎ ヨーバル、◎ ルーチン、◎ エバーゴルはバイエルグループの登録商標



バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
<https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎ 0120-575-078
9:00~12:00, 13:00~17:00 土日祝日および会社休日を除く

第2版 (P-2037 21.10.jeki)

ヨーバル®プライムEV箱粒剤の特長

● 水稻的主要病害虫に優れた効果

- いもち病防除の定番「ルーチン®」(有効成分:イソチアニル)、紋枯病に優れた効果を示す「エバーゴル®」(有効成分:ペンフルフェン)、新規ジアミド系殺虫剤「ヨーバル®」(有効成分:テトラニリプロール)の3有効成分からなる水稻育苗箱専用剤です。
- 水稻の主要病害虫であるいもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、チョウ目害虫のニカメイチュウ、コブノメイガ、フタオビコヤガに優れた効果を発揮します。

● 優れた浸透移行性と長い残効

イソチアニル、ペンフルフェン、テトラニリプロールはいずれも浸透移行性に優れ、長い残効性を有します。

● は種前、は種時から移植当日まで使用可能

覆土、床土混和、は種時覆土前から移植当日までの幅広い時期で処理が可能です。

● 高密度播種へ高い適用性

高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当たりの使用量を50~100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。(※ただし10a当りの処理量は最大1kg/10aです。)



● 適用病害虫および使用方法

(2021年10月現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミズゾウムシ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壤約5L)1箱当たり50g	は種前		育苗箱の床土または 覆土に均一に混和する
	紋枯病、白葉枯病 イネドロオイムシ ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ フタオビコヤガ ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ イナゴ類	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壤約5L) 1箱当たり50~100g)	は種時(覆土前) ~移植当日	本 テトラニリプロール: 1回 イソチアニル: 3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回) ペンフルフェン: 1回	育苗箱の上から 均一に散布する
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穗枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壤約5L) 1箱当たり50g			
		高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、使用土壤約5L) 1箱当たり50~100g)	移植3日前 ~移植当日		

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

注意事項

- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用して下さい。また本剤を処理した床土または覆土を放置しないで下さい。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5L)1箱当たりに乾燥として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aとなるよう、育苗箱1箱当たりの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 本剤処理後の極端な低温または高温条件下で薬害を生じるおそれがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめて下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稻苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれないように散布して下さい。また、土壤全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壤への浸透をさけて下さい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤食などのないよう注意して下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けて下さい。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体质の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないで下さい。
- 移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
- 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。

◎播種同時施薬機や田植同時施薬機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

目次

特長	2
適用病害虫および使用方法	3
有効成分の名称および物理的化学的性状等／安全性(製剤)	4
テトラニリプロールの作用機構と作用特性	5
イソチアニルの作用機構と作用特性	6
ペンフルフェンの作用機構と作用特性	7
病害虫への効果	8
新農薬実用化試験 概評(抜粋)	11
使用して問題のなかった水稻品種、育苗用培土の事例	14
稻の最重要病害「いもち病」／稻の2大病害「紋枯病」	15

有効成分の名称および物理的化学的性状等

■商品名:ヨーバル®プライムEV箱粒剤 ■農林水産省登録:第24475号
 ■試験名:BCM-191粒剤
 ■種類名:テトラニリプロール・イソチアニル・ベンフルフェン粒剤
 ■性状:類白色細粒 ■有効年限:4年

有効成分名	イソチアニル	ベンフルフェン	テトラニリプロール
成分量	2.0%	2.0%	1.5%
化学名	3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド	2'-(RS)-1,3-ジメチルブチル]-5-フルオロ-1,3-ジメチルピラゾール-4-カルボキサニリド	1-(3-クロロ-2-ピリジル)-4'-シアノ-2'-メチル-6'-メチルカルバモイル-3-[5-(トリフルオロメチル)-2H-テトラゾール-2-イル]メチルピラゾール-5-カルボキサニリド
構造式			
分子量	298.15	317.41	544.88
融点	193.7~195.1°C	111°C	227~230°C
水溶解度	0.5mg/l (20°C)	12.4mg/l (20°C)	1.2mg/l (20°C)
蒸気圧	2.36×10 ⁻⁷ Pa (25°C)	4.1×10 ⁻⁷ Pa (20°C)	4.6×10 ⁻⁶ Pa (25°C)
オクタノール/水分配係数(log Pow)	2.96 (25°C)	3.3 (25°C)	2.6 (25°C)
作用機構(FRAC/IRACコード)	P3	7	28

安全性(製剤*)

人畜毒性:普通物*

- ◇急性経口毒性(ラット♀)… LD₅₀>2,000mg/Kg
- ◇皮膚刺激性(ウサギ)… 刺激性なし
- ◇眼刺激性(ウサギ)… 刺激性なし
- ◇皮膚感作性(モルモット)… 感作性なし(ただしイソチアニル、ベンフルフェン、テトラニリプロールに感作性あり)

水産動植物への影響

- ◇魚類急性毒性(コイ)… LC₅₀(96時間)5.52mg/l
- ◇ミジンコ類急性遊泳阻害(オオミジンコ)… EC₅₀(48時間)1.11mg/l
- ◇藻類生長阻害(緑藻)… ErC₅₀(0~72時間)>1,000mg/l

*「毒物および劇物取締法」に基づく毒物・劇物に該当しないものを指す用語

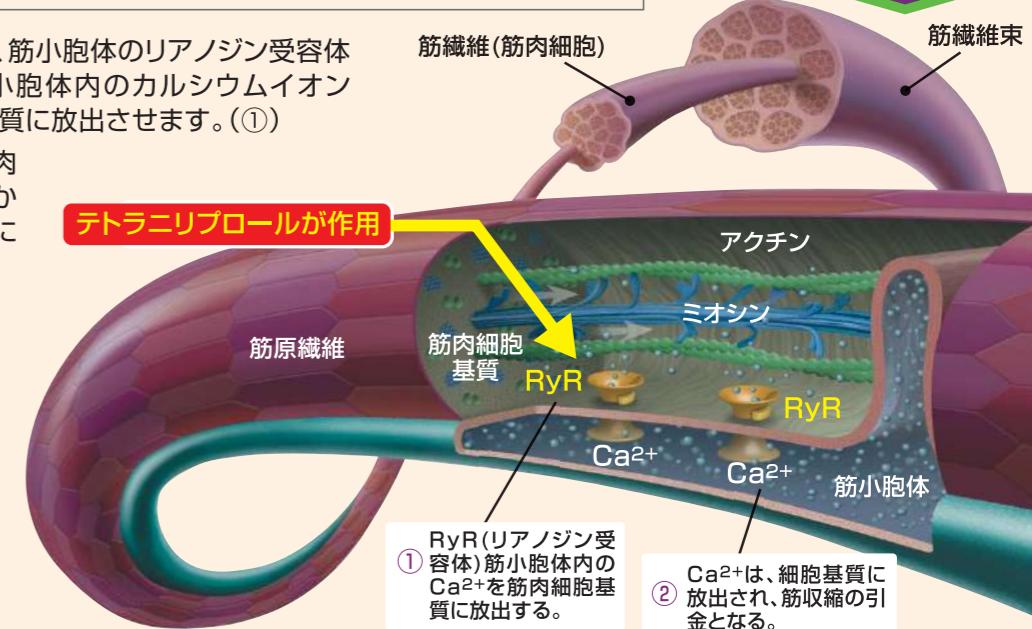
※テトラニリプロール・ピメトロジン・イソチアニル・ベンフルフェン粒剤の試験成績による代替

テトラニリプロールの作用機構と作用特性

作用機構

■テトラニリプロールは、筋小胞体のリアノジン受容体(RyR)に作用し、筋小胞体内的カルシウムイオン(Ca²⁺)を筋肉細胞基質に放出させます。(①)

■その結果、昆虫は筋肉の収縮を起こし、速やかに活動が停止して死に至ります。(②)



作用特性

●テトラニリプロールの虫体萎縮症状

■テトラニリプロール処理により、摂食活動の停止と虫体萎縮症状が見られました。



2019年
バイエルクロップサイエンス(株)社内試験

- 品種:ヒヨクモチ
- 対象害虫:コブノメイガ
- 処理方法:小さなポットで栽培した苗(15~17cm)を1ppmに調製したテトラニリプロール溶液(Triton X-100を0.1%になるように加用)に20秒浸漬し、風乾。
- 接種方法:風乾後、5~7cmに切った葉片10枚をシャレに入れ、約10頭のコブノメイガ幼虫(5~7mm)を接種。接種3日後に調査。

●イネ主要害虫への効果

■テトラニリプロールは水稻害虫に対し幅広い殺虫スペクトラムを有します。

害虫名		テトラニリプロールの殺虫スペクトラム(水稻(育苗箱))
チョウ目	ニカメイチュウ	○
	コブノメイガ	○
	フタオビコヤガ	○
	イネツトムシ	○
コウチュウ目	イネドロオイムシ	○
	イネミズゾウムシ	○
カムシ目	ツマグロヨコバイ	○
ハエ目	イネヒメハモグリバエ	○
バッタ目	コバネイナゴ	○

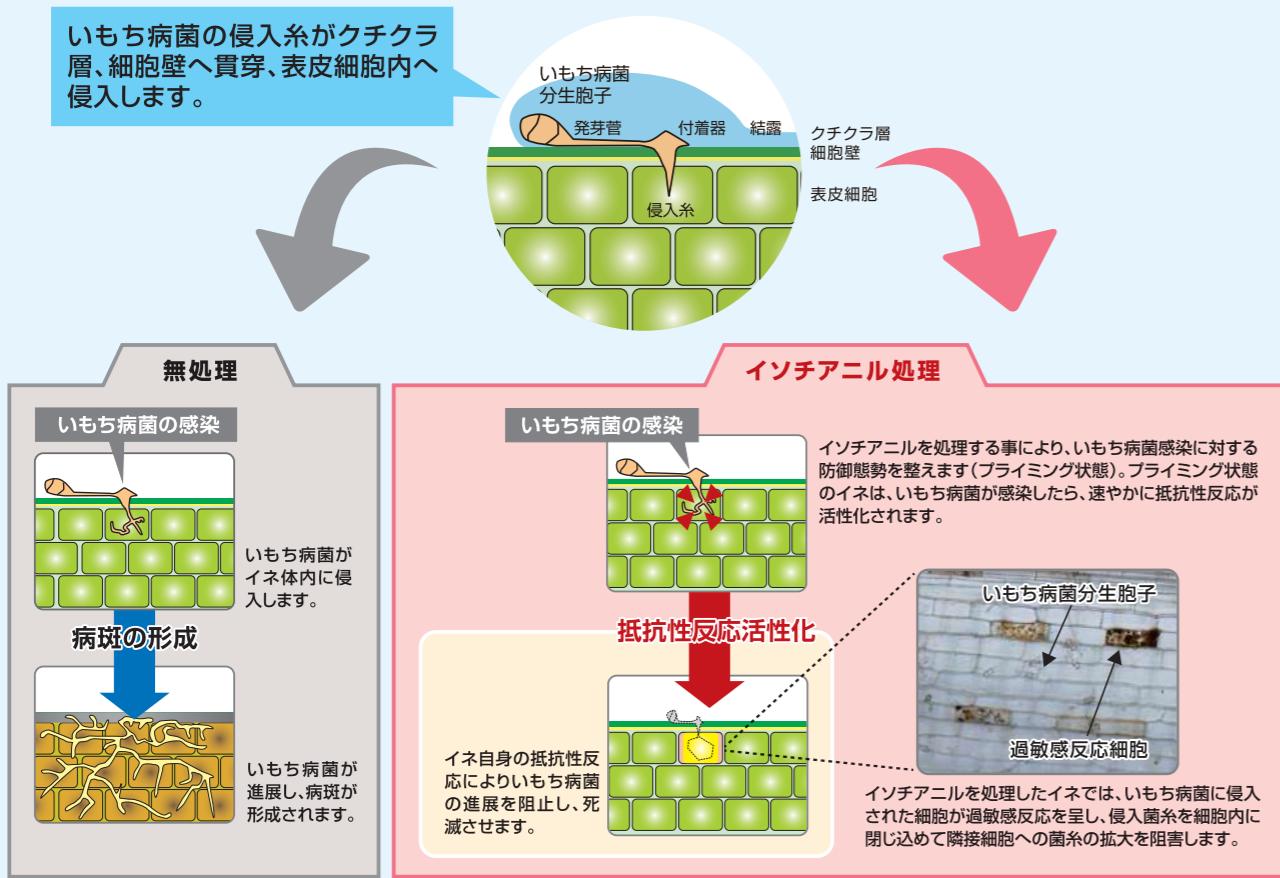
○:殺虫活性あり

■特に活性の高い害虫

イソチアニルの作用機構と作用特性

作用機構

- イソチアニルは、イネが本来持っている自己防御機構を増強させ、いもち病などからイネを守ります。
- イソチアニルは処理後速やかに根部より吸収され、イネ体内に移行し、さまざまな病害抵抗性関連の防御反応をイネ体内に誘導して、病原菌の侵入に備える自己防御態勢をイネに整えます。



作用特性

●イネ病害に対する阻害効果(育苗箱処理)

- イソチアニルは、いもち病に高い効果を発揮します。
いもち病以外にも、白葉枯病や穂枯れ(ごま葉枯病菌)などに対して効果が認められます。

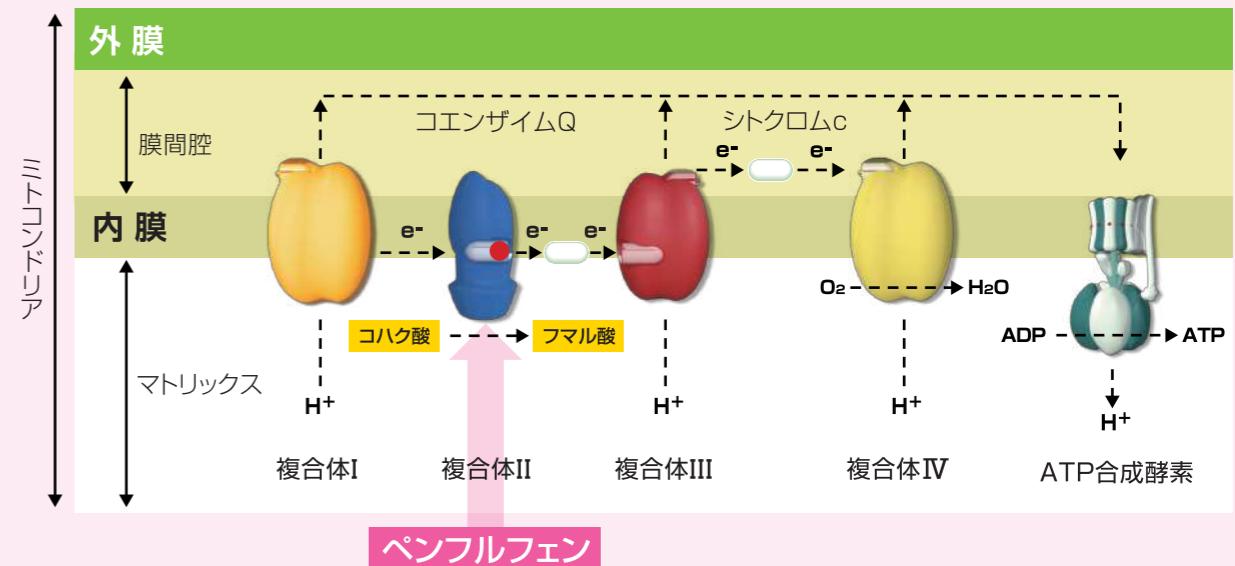
作物	病害	効果
イネ	いもち病	+++
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)	+ ~ ++
	ごま葉枯病	—
担子菌類	紋枯病	—
	苗立枯病(<i>Rhizopus</i> sp.)	—
細菌類	白葉枯病	++ ~ +++
	もみ枯細菌病	+
	内穎褐変病	+
	苗立枯細菌病	+
	褐条病	—

+++ 効果が高い
++ 効果あり
+ 低い効果あり
— 効果不足

ペンフルフェンの作用機構と作用特性

作用機構

- ペンフルフェンは、病原菌のミトコンドリア電子伝達系複合体IIのタンパク質(コハク酸脱水素酵素)に作用します。
- 病原菌のエネルギー代謝を妨げることで、病原菌の主たる生育段階、すなわち菌糸成長、胞子発芽、発芽管伸長、胞子形成などを強く阻害します。



作用特性

●イネ病原菌に対する阻害活性※

- 紋枯病や疑似紋枯症の病原菌の属する担子菌類に対し優れた活性を示します。

作物	病害	効果
イネ	いもち病	+
	ばか苗病	+
	ごま葉枯病	+
担子菌類	紋枯病	+++
	褐色紋枯病菌(疑似紋枯症)	++
	赤色菌核病菌(疑似紋枯症)	++
	褐色菌核病菌(疑似紋枯症)	+++
	灰色菌核病菌(疑似紋枯症)	+++
	球状菌核病菌(疑似紋枯症)	+++
	褐色小粒菌核病菌(疑似紋枯症)	+++
	接合菌類 苗立枯病(<i>Rhizopus</i> sp.)	—
卵菌類	苗立枯病(<i>Pythium</i> sp.)	—

+++ 効果が高い
++ 効果あり
+ 低い効果あり
— 効果不足

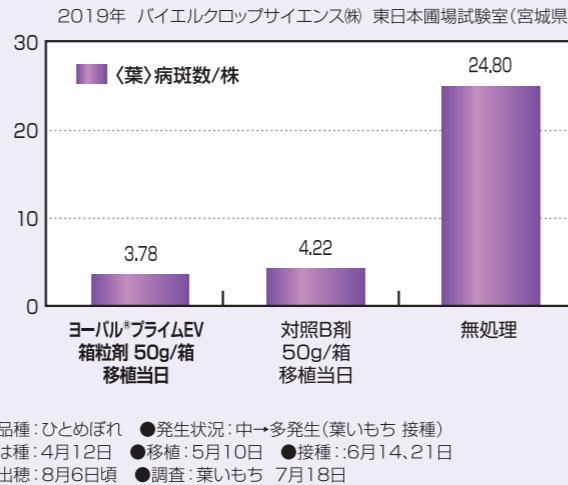
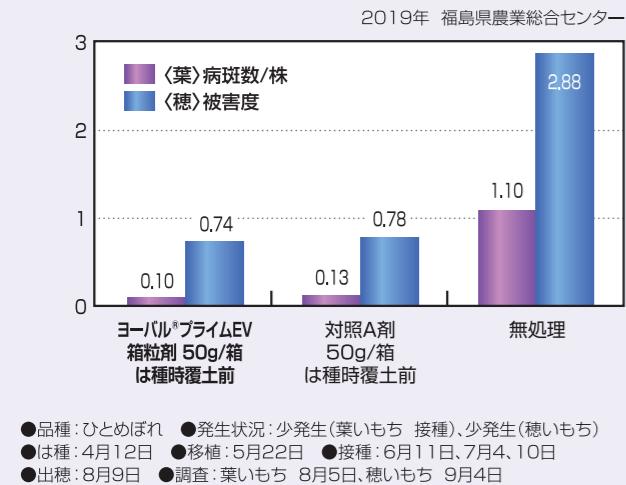
※寒天平板希釈法による各病害の病原菌に対する菌糸伸長阻害活性試験

- 紋枯病の伝染環とペンフルフェンの作用点
- 紋枯病の伝染環の殆どのステージに作用し、優れた効果を発揮します。

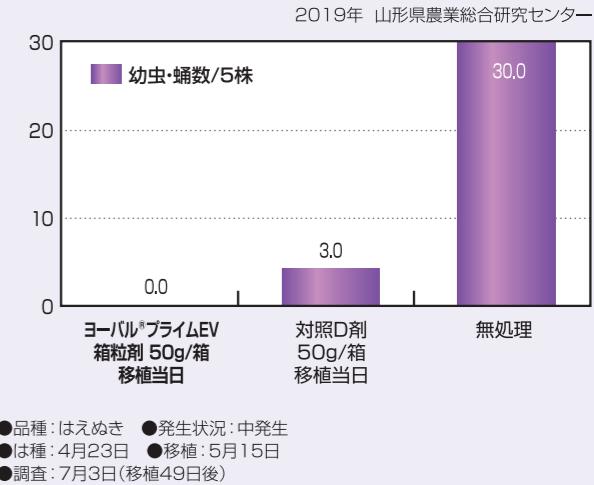
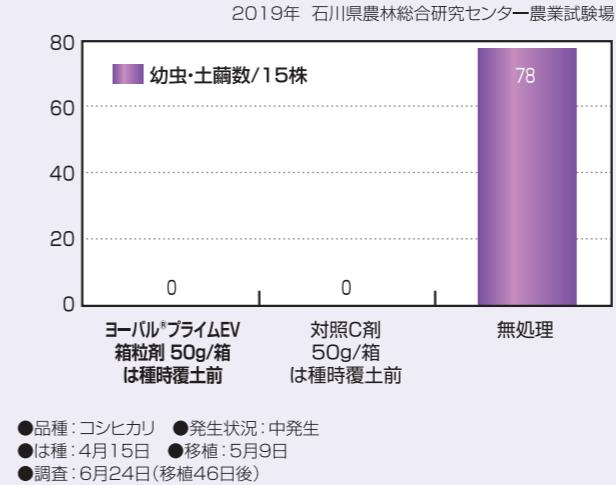


病害虫への効果

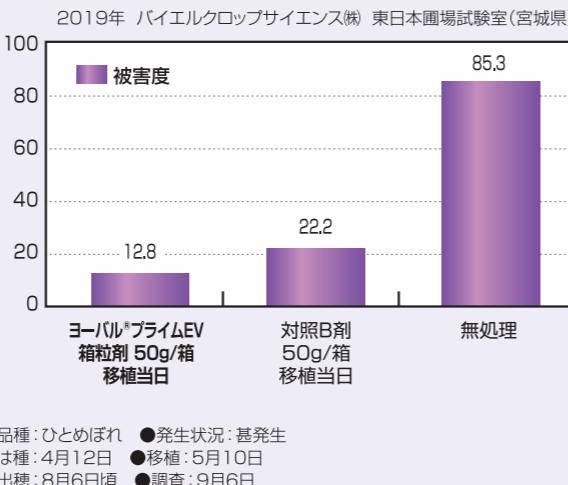
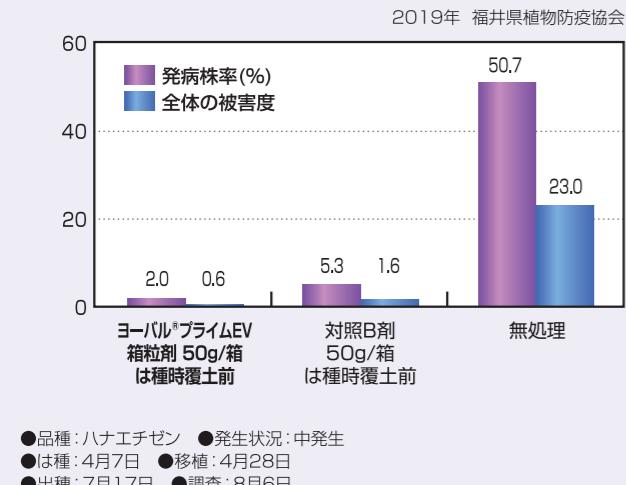
■いもち病への効果



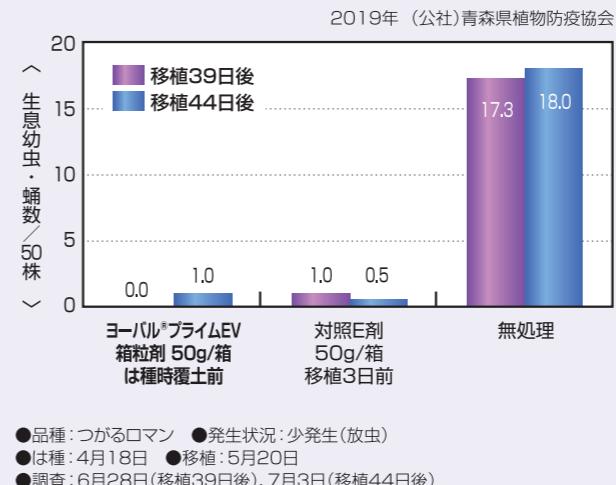
■イネミズゾウムシへの効果



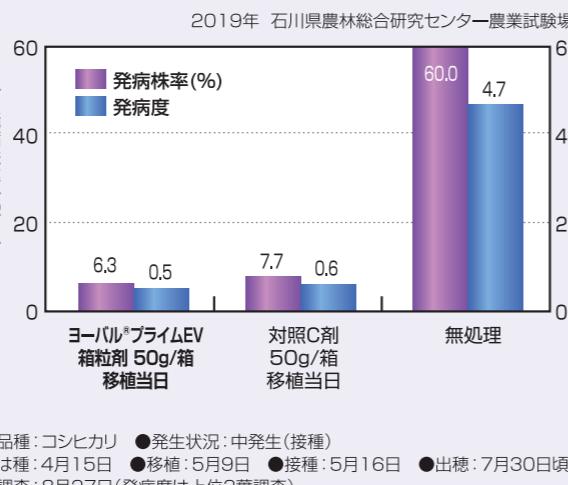
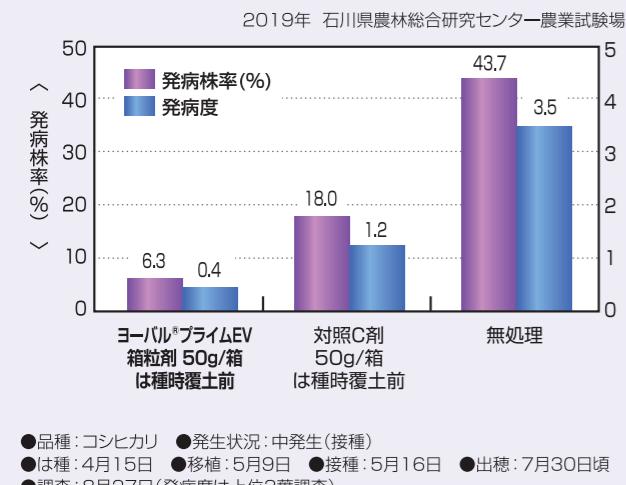
■紋枯病への効果



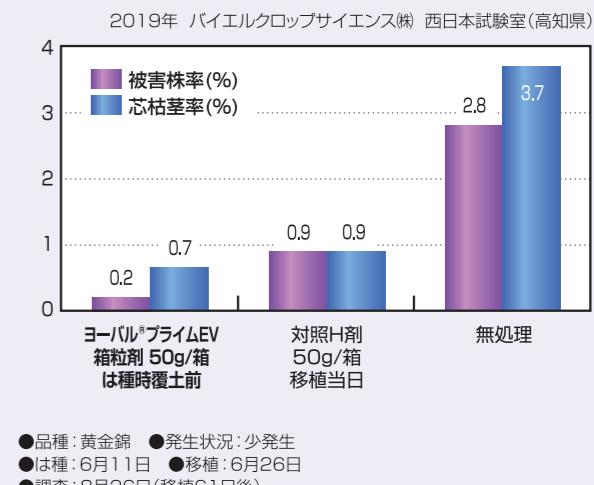
■イネドロオイムシへの効果



■白葉枯病への効果



■ニカメイチュウへの効果

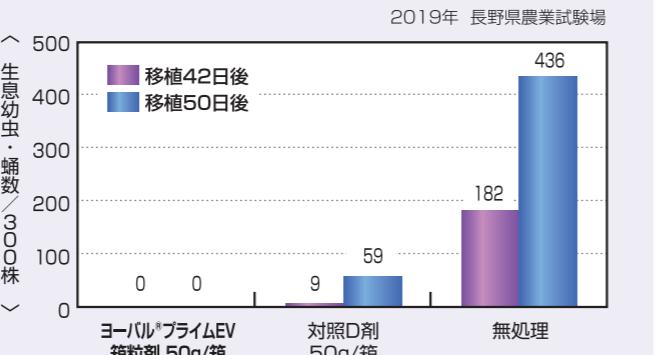


病害虫への効果

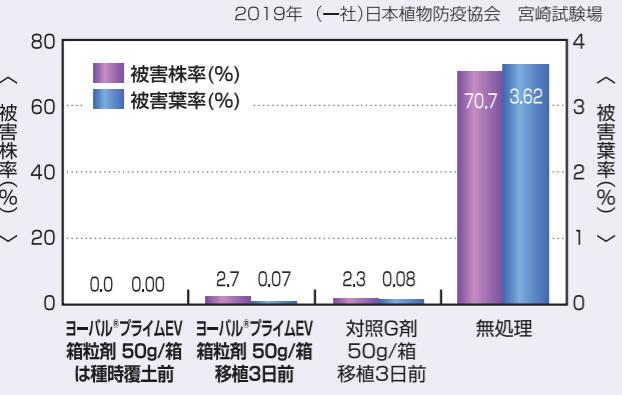
■フタオビコヤガへの効果



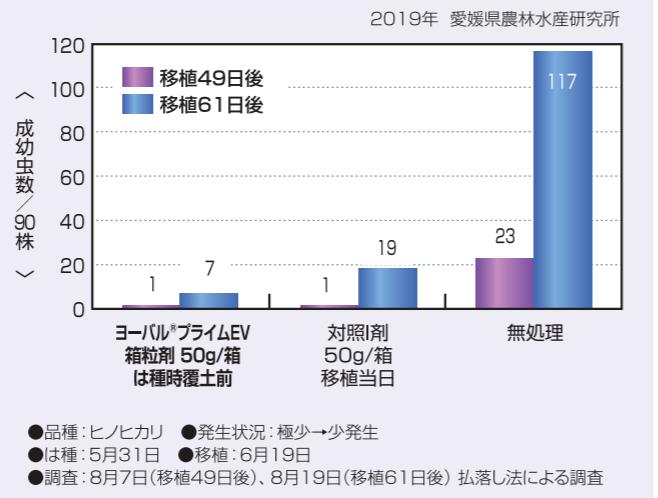
■イネツムシへの効果



■コブノメイガへの効果



■ツマグロヨコバイへの効果



新農薬実用化試験 概評 (抜粋)

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件		対照薬剤(処理条件)	効果			
							処理方法	回数	処理時期	対照	無処理	判定	
いもち病	稻(ひとめぼれ)	いもち病	宮城古川	本田	葉:少(接種) 穂:極少	は種:4/18 移植:5/16 出穂:8/5	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照B剤 50g/箱 (移植当日)	葉:A 穂:?	葉:A 穂:?	-
	稻(ナツミノリ)	いもち病	秋田	本田	葉:中(接種) 穂:中	は種:4/13 移植:5/13 出穂:7/29	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B 穂:B	葉:A 穂:C	-
	稻(ひとめぼれ)	いもち病	山形	本田	葉:少(接種) 穂:極少	は種:4/23 移植:5/16 出穂:7/30	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照D剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B 穂:?	葉:C 穂:?	-
	稻(ひとめぼれ)	いもち病	福島	本田	葉:少(接種) 穂:少	は種:4/12 移植:5/22 出穂:8/9	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照A剤 50g/箱 (移植当日)	葉:B 穂:B	葉:B 穂:B	-
	稻(ひとめぼれ)	いもち病	宮城古川	本田	葉:少(接種) 穂:極少	は種:4/18 移植:5/16 出穂:8/5	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照B剤 50g/箱 (は種時覆土前)	葉:B 穂:?	葉:A 穂:?	土
	稻(ナツミノリ)	いもち病	秋田	本田	葉:中(接種) 穂:中	は種:4/10 移植:5/13 出穂:7/29	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (は種時覆土前)	葉:B 穂:B	葉:A 穂:C	土
	稻(ひとめぼれ)	いもち病	福島	本田	葉:少(接種) 穂:少	は種:4/12 移植:5/22 出穂:8/9	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照A剤 50g/箱 (は種時覆土前)	葉:B 穂:B	葉:B 穂:B	-
	稻(ひとめぼれ)	いもち病	山形	本田	葉:少(接種) 穂:極少	は種:4/23 移植:5/16 出穂:7/30	50g/箱 覆土混和	1	は種前(4/23)	対照D剤 50g/箱 (床土混和 4/23)	葉:A 穂:?	葉:B 穂:?	-
	稻(ナツミノリ)	いもち病	秋田	本田	葉:中(接種) 穂:中	は種:4/10 移植:5/13 出穂:7/29	50g/箱 床土混和	1	は種前(4/4)	対照A剤 50g/箱 (は種時覆土前)	葉:B 穂:B	葉:A 穂:C	土
	稻(ひとめぼれ)	いもち病	山形	本田	葉:少(接種) 穂:極少	は種:4/23 移植:5/16 出穂:7/30	50g/箱 床土混和	1	は種前(4/23)	対照D剤 50g/箱 (床土混和 4/23)	葉:A 穂:?	葉:B 穂:?	-

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件		対照薬剤(処理条件)	効果			
							処理方法	回数	処理時期	対照	無処理	判定	
白葉枯病	稻(コシヒカリ)	白葉枯病	石川	本田	中(接種)	は種:4/15 移植:5/9 出穂:7/30	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照C剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A
	稻(ヒノヒカリ)	白葉枯病	日植防高知	本田	少(接種)	は種:5/10 移植:6/5 出穂:8/26	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照K剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	B
	稻(ヒノヒカリ)	白葉枯病	京都府大(病)	本田	中(接種)	は種:5/15 移植:6/12 出穂:8/25頃	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照H剤 50g/箱 (移植前日)	C	C	C
	稻(コシヒカリ)	白葉枯病	石川	本田	中(接種)	は種:4/15 移植:5/9 出穂:7/30	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照C剤 50g/箱 (は種時覆土前)	A	A	A
	稻(ヒノヒカリ)	白葉枯病	日植防高知	本田	少(接種)	は種:5/10 移植:6/5 出穂:8/26	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照K剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	B
	稻(ヒノヒカリ)	白葉枯病	京都府大(病)	本田	中(接種)	は種:5/15 移植:6/12 出穂:8/25頃	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照H剤 50g/箱 (移植前日)	B	B	B
	稻(ヒノヒカリ)	白葉枯病	宮城古川	本田	中(接種)	は種:4/18 移植:5/16 出穂:8/5	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照B剤 50g/箱 (移植当日)	C	C	C

実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件		対照薬剤(処理条件)	効果		
処理方法	回数	処理時期	対照	無処理	判定	葉害						
</tr

新農薬実用化試験 概評（抜粋）

もみ枯細菌病	実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
								処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
	2019	稻(ヒノヒカリ)	もみ枯細菌病	京都府大(病)	本田	中(接種)	は種:5/15 移植:6/12 出穂:8/25頃	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照H剤 50g/箱 (移植前日)	A	B	B	-
	2019	稻(コシヒカリ)	もみ枯細菌病	日植防茨城	本田	少(接種)	は種:4/18 移植:5/9 出穂:8/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照N剤 30g/箱 (移植3日前)	B	B	B	-
	2019	稻(日本晴)	もみ枯細菌病	山口	本田	多(接種)	は種:5/14 移植:6/6 出穂:8/18	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照O剤 50g/箱 (移植当日)	D	D	D	-

内穎褐変病	実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
								処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
	2019	稻(きぬむすめ)	内穎褐変病	兵庫植	本田	中	移植:6/18 出穂:8/23	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照P剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
	2019	稻(ヒノヒカリ)	内穎褐変病	奈良植	本田	少	は種:5/6 移植:6/15 出穂始:8/25	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照Q剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
	2019	稻(にこまる)	内穎褐変病	日植防岡山	本田	少	は種:5/29 移植:6/22 出穂:9/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照K剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-

穂枯れ(ごま葉枯病菌)	実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
								処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
	2019	稻(キヌヒカリ)	穂枯れ(ごま葉枯病菌)	兵庫	本田	中	は種:5/10 移植:6/6 出穂:8/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照K剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
	2020	稻(キヌヒカリ)	穂枯れ(ごま葉枯病菌)	兵庫	本田	少	は種:5/11 移植:6/4 出穂:8/5	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照R剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-
	2020	稻(ヒノヒカリ)	穂枯れ(ごま葉枯病菌)	日植防宮崎	本田	中(接種)	は種:6/5 移植:6/22 出穂:8/26	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照S剤 50g/箱 (移植3日前)	B	C	C	-

イネミズゾウムシ	実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
								処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
	2019	稻(あきたこまち)	イネミズゾウムシ	秋田	本田	多(放虫)	は種:4/10 移植:5/10	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照T剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
	2019	稻(はえぬき)	イネミズゾウムシ	山形	本田	中	は種:4/23 移植:5/15	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照D剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-
	2019	稻(コシヒカリ)	イネミズゾウムシ	石川	本田	中	は種:4/15 移植:5/9	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照C剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
	2019	稻(コシヒカリ)	イネミズゾウムシ	日植防茨城	本田	中	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	-
	2019	稻(はえぬき)	イネミズゾウムシ	山形水田	本田	多(放虫)	は種:4/12 移植:5/8	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照U剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-
	2019	稻(コシヒカリ)	イネミズゾウムシ	石川	本田	中	は種:4/15 移植:5/9	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照C剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	-
	2019	稻(コシヒカリ)	イネミズゾウムシ	日植防茨城	本田	中	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
	2019	稻(コシヒカリ)	イネミズゾウムシ	日植防茨城	本田	中	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照E剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-
	2019	稻(コシヒカリ)	イネミズゾウムシ	日植防茨城	本田	中	は種:4/11 移植:5/2	50g/箱 覆土混和	1	は種前(4/11)	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-
	2019	稻(つがるロマン)	イネミズゾウムシ	青森植	本田	中	は種:4/18 移植:5/20	50g/箱 床土混和	1	は種前(4/18)	対照E剤 50g/箱 (移植3日前)	B	A	A	-
	2019	稻(あきたこまち)	イネミズゾウムシ	秋田	本田	多(放虫)	は種:4/10 移植:5/10	50g/箱 床土混和	1	は種前(4/4)	対照T剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-

イネドロオイムシ	実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害
								処理方法	回数	処理時期		対対照	対無処理	判定	
	2019	稻(あきたこまち)	イネドロオイムシ	岩手植	本田	少(放虫)	は種:4/18 移植:5/18	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照V剤 50g/箱 (移植当日)	B</			

新農薬実用化試験 概評（抜粋）

ツ マ グ ロ ヨ コ バ イ	実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害		
								処理方法	回数	処理時期		効果					
												対対照	対無処理	判定			
2019	稻(にこまる)	ヨコバイ類(ツマグロヨコバイ)	日植防岡山	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	D	B	B	-			
2019	稻(ヒノヒカリ)	ヨコバイ類(ツマグロヨコバイ)	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照J剤 50g/箱 (移植当日)	D	C	C	-			
2019	稻(あきほなみ)	ヨコバイ類(ツマグロヨコバイ)	鹿児島	本田	多	は種:5/15 移植:6/6	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照F剤 50g/箱 (移植当日)	A	B	B	-			
2019	稻(ヒノヒカリ)	ヨコバイ類(ツマグロヨコバイ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	移植3日前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	C	B	B	-			
2019	稻(ヒノヒカリ)	ヨコバイ類(ツマグロヨコバイ)	山口	本田	少	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照J剤 50g/箱 (移植当日)	D	C	C	±			
2019	稻(ヒノヒカリ)	ヨコバイ類(ツマグロヨコバイ)	愛媛	本田	極少→少	は種:5/31 移植:6/19	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照I剤 50g/箱 (移植当日)	A	A	A	-			
2019	稻(ヒノヒカリ)	ヨコバイ類(ツマグロヨコバイ)	日植防宮崎	本田	少	は種:6/9 移植:6/28	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照G剤 50g/箱 (移植3日前)	D	B	B	-			

イ ナ ゴ 類	実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害		
								処理方法	回数	処理時期		効果					
												対対照	対無処理	判定			
2019	稻(にこまる)	イナゴ類(コバネイナゴ)	日植防岡山	本田	中	は種:5/29 移植:6/20	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照Y剤 50g/箱 (移植当日)	C	B	B	-			
2020	稻(コシヒカリ)	イナゴ類(コバネイナゴ) フィールドバイオリサーチ(茨城)	本田	少	は種:4/17 移植:5/7	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照F剤 50g/箱 (は種時覆土前)	C	B	B	-				
2019	稻(コシヒカリ)	イナゴ類(コバネイナゴ) フィールドバイオリサーチ(茨城)	本田	少	は種:4/18 移植:5/9	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照X剤 50g/箱 (は種時覆土前)	C	B	B	-				
2020	稻(コシヒカリ)	イナゴ類(コバネイナゴ) フィールドバイオリサーチ(茨城)	本田	少	は種:4/17 移植:5/7	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照H剤 50g/箱 (は種時覆土前)	B	A	A	±				
2020	稻(キヌヒカリ)	イナゴ類(コバネイナゴ) 油日(滋賀)	本田	少(放虫)	は種:4/20 移植:5/11	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照H剤 50g/箱 (は種時覆土前)	C	B	B	-				

イ ネ ヒ メ ハ モ グ リ バ エ	実施年度	作物名(品種名)	病害虫名(種名)	実施場所	圃場	発生状況	栽培条件	処理条件			対照薬剤(処理条件)	効果			薬害		
								処理方法	回数	処理時期		効果					
												対対照	対無処理	判定			
2020	稻(あきたこまち)	イネヒメハモグリバエ	秋田	本田	中	は種:4/10 移植:5/11	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照AA剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	-			
2020	稻(ササニシキ)	イネヒメハモグリバエ	宮城植	本田	中	は種:4/11 移植:5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	移植当日	対照W剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-			
2020	稻(あきたこまち)	イネヒメハモグリバエ	秋田	本田	中	は種:4/10 移植:5/11	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照AA剤 50g/箱 (移植当日)	B	A	A	±			
2020	稻(ササニシキ)	イネヒメハモグリバエ	宮城植	本田	中	は種:4/11 移植:5/5	50g/箱 育苗箱施用	1	は種時覆土前	対照W剤 50g/箱 (移植当日)	B	B	B	-			

●使用して問題のなかった水稻品種、育苗用培土の事例（慣行播種／は種時覆土前処理での確認事例）

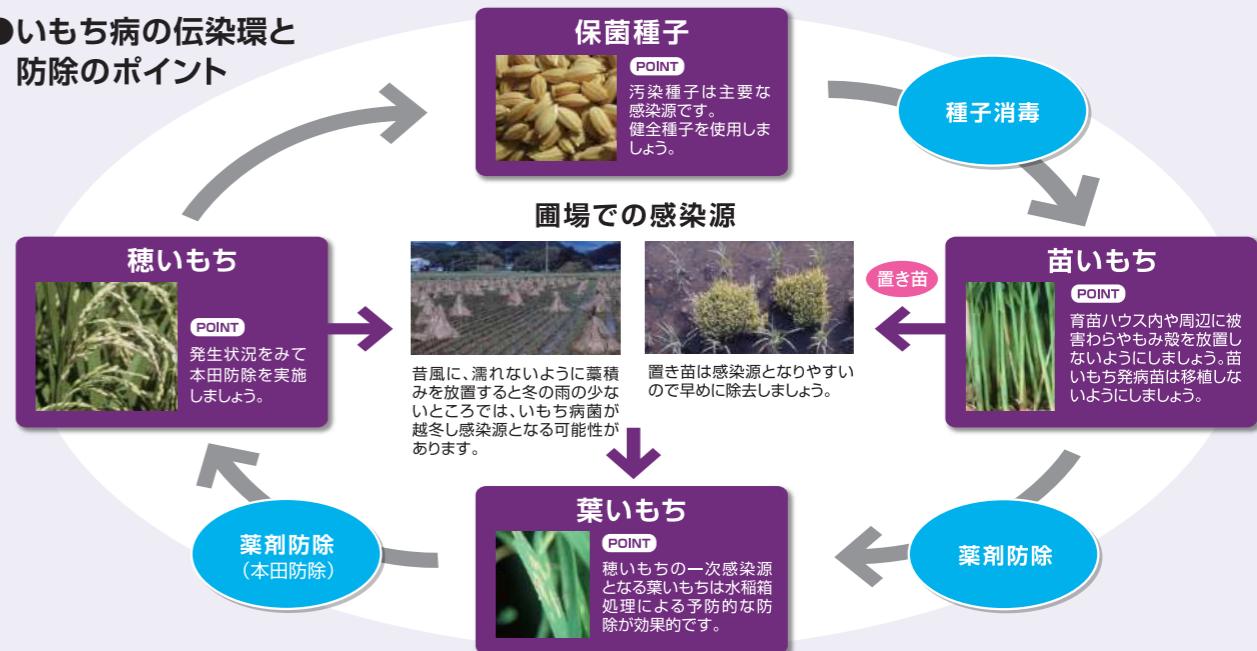
水稻品種 秋のきらめき・キヌヒカリ・コシヒカリ・黄金錦・さがびより・つがるロマン・ナツミノリ・はえぬき・ハナエチゼン・ひとめぼれ・ヒノヒカリ・ひめの凜・夢しづく・ゆめみづほ

育苗用培土 イセキ田植機用育苗専用培土・イセキ培土・イセキラブリー培土・いなほ培土・宇部粒状培土2号・輝培土・極きわみつけ・くみあい粒状培土・クリーン培土・合成培土L・ゴールデンゼオライト培土・しなの培養土・苗みどり・ニュースーパー培土・ホーネン培土・ヤンマーすごやか培土・粒状軽量培土

稻の最重要病害「いもち病」

いもち病は稻に対し最も甚大な被害を与える病害です。低温で雨の続く天候や窒素肥料を多用した場合に発病しやすく、稻の発芽間もない時期から収穫期近くまで長期間にわたり発生します。いもち病は伝染力が強いため、予防的な防除が重要です。優れた抵抗性誘導剤イソチアニルを含むヨーバル®プライムEV箱粒剤の処理により、いもち病の初期感染を長期にわたり防除することができます。

●いもち病の伝染環と防除のポイント



稻の2大病害「紋枯病」

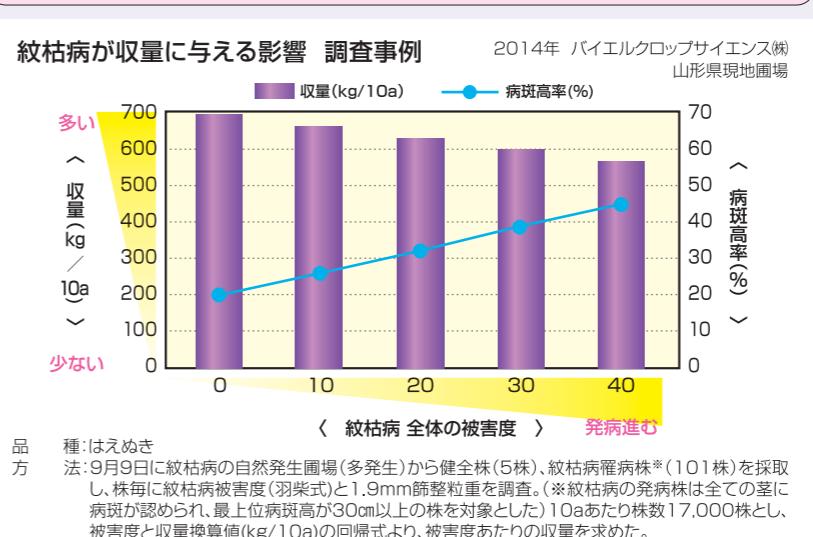
紋枯病は収量や品質の低下を招き、稻作の収益に影響する病害です。高温性の本病は近年被害が問題化しています。紋枯病に対し極めて高い効果を発揮し、また、効果の持続性に優れるペンフルフェンを含むヨーバル®プライムEV箱粒剤の処理により、省力的、効果的な紋枯病の防除が可能です。

●紋枯病による被害

収量の減少 紋枯病の発病が進み、上位に病斑が進展するほど減収となります

品質低下

未成熟粒や乳白粒が発生し、食味も低下します



倒伏

